

よくある質問



- ☐ 介助の仕方や体の動かし方を知りたい→①②③④⑤⑥
- ☐ どんなどころに気を付けて介助すればいいの？ケガをさせないかと心配です。→①②③④⑤⑥
- ☐ 体育や自立活動などの授業で子どもにどんな運動をさせればいいのか？→①②③
- ☐ 勉強のときの補助具や工夫を知りたい。→①②③④⑥
- ☐ リハビリの先生に相談したいけど、何か手続きがあるの？→②③⑥
- ☐ 困ったことや分からないことは、どこに相談すればいいのか？→①②③⑦

ヒント① 基本的な考え方



特別支援教育では、さまざまな関係機関とネットワークを作って、子どもの成長に応じた支援を行うことが必要、と示されています。

(文部科学省「特別支援教育パンフレット」より)

担任だけでは、視野の広い教育を行うことはできませんし、肢体不自由教育についての専門性もすぐに高まるものではありません。関係機関と連携することがよりよく、安全・安心な教育につながるということをご理解下さい。



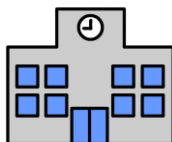
ヒント② 相談することができる機関

(1) 特別支援学校（肢体不自由）・・・香川県立高松支援学校

肢体不自由のある子どもの教育を専門に行っています。

身体援助や学習支援の方法、自立活動の授業、車いすやICT機器などの支援用具、就学や進学、就職のこと、施設設備についてなど幅広く相談することができます。

小学生から高校生まで様々な年齢の子どもが通っているので、肢体不自由のある子どもの成長の様子に詳しいという特長もあります。

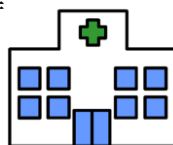


(2) 病院・リハビリ機関

いろいろな専門のスタッフが治療を行っています。

担任するお子さんに、直接、数年にわたって関わっているので、より専門的で具体的なアドバイスが期待できます。

それぞれが専門にしている内容が異なるので、一人の先生に多岐にわたる相談はできません。相談内容を整理しておくとういでしょう。



ヒント③ 病院・リハビリの専門家について

医者：病気の診断・治療の専門家。障害のこと、健康への配慮などを教えてもらえます。

PT：理学療法士。関節のストレッチや姿勢、体の動かし方などの専門家。身体援助の方法や運動課題などのアドバイスがもらえます。

OT：作業療法士。字を書いたり物を扱ったりする日常の動作の専門家。学習時の補助具や支援方法のアドバイスがもらえます。

ST：言語聴覚士。発音指導やコミュニケーション手段、聴覚（聞こえ）の専門家。発達に応じた学習課題やコミュニケーション指導のヒントがもらえます。

ORT：視能訓練士。見えの専門家。視力や眼球運動の実態から、教材の字の大きさや色使いなど、必要な手立てのアドバイスがもらえます。

ヒント④ 相談・見学の申し入れについて

(1) 特別支援学校（肢体不自由）

電話で「教育相談を受けたい」とお伝え下さればOKです。

連絡先はそれぞれの学校のホームページにのっています。
電話やメール相談もできますが、やりとりでズレが生じることがありますので、基本的には特別支援学校に出向いて相談することをお勧めします。

高松支援学校「からだと学びの相談センター」

このワードで検索するか、右のQRコードを読み込んでください。



(2) 病院・リハビリ機関

保護者を通じて、相談や見学を申し入れます。

保護者の了解なしに情報提供はしてもらえません。保護者の了解を得た上で、直接、連絡を取る方法もあります。

ヒント⑥ 教師がリハビリを行ってよいのですか？

学校は治療を行う機関ではありませんし、リハビリは医者の指示の下、専門家が行っているものです。

見学した内容をそのまま授業で行うことは適切ではありません。アドバイスを学校生活の場面に合わせて取り入れたり、教育的な工夫を加えたりして行うようにします。



相談や見学の時には、リハビリの様子を見るだけではなく、「学校の〇〇の時にはどう行えばよいですか？」と学校場面での応用の仕方を聞いておくとよい、と言えます。

ヒント⑤ 相談のときに用意するとよいもの

～ビデオや写真、学習の様子が分かる資料のご用意を～

「トイレの介助」「歩行の援助」「体育での運動」など
相談内容が決まっているなら、その様子のビデオや写真を。

病院・リハビリ機関

記録にはメモだけではなく、デジタルカメラの持参をお勧めします。見学したことを後で振り返りやすくなります。



撮影の前には、必ず、相手の先生、本人・保護者に了解を得た上で、他の利用者の方が映り込まないように配慮をしてください。

リハビリの時間は限られていますので、相談内容をあらかじめ整理しておくことも大切です。

ヒント⑦ 相談や見学をした後にすること

アドバイスを受けてどんな風に取り入れたかななどの事後の報告をするとなおよいと思います。書面でも電話でも構いません。1～2か月後でよいと思います。

アドバイスした担当者も「あのアドバイスはどうだったのかな？」と気にかけて下さっています。つながりを持っておくと、相談もしやすくなります。また先方から新しいアドバイスをもらえるかもしれません。

参考になる本や資料

(1) 障害の重い子どもの指導 Q & A

(ジアース教育新社)

(2) 国立特別支援教育総合研究所ホームページ



この資料に関するお問い合わせは・・・

香川県立高松支援学校「からだと学びの相談センター」 (087) 865-4500

よくある質問



- ☐ 車いすで座って勉強するのと、机やいすを使うのはどっちがいいの？→①②③
- ☐ 学校にある児童机やいすでは勉強しにくそう。どんなものを用意したらいいですか？→①②③
- ☐ 体が小さくていすが合わないときはどうしたらいいですか？→④⑤

ヒント① よく使われるいす・机の種類と組み合わせ

車いすは万能いすではありません。

車いすは、お子さん一人一人の体格や身体能力に合わせて作られています。しかし一台の車いすで、「移動」「活動（勉強や食事等）」「休息」などすべての場面をカバーするのは難しく、場面によって他のいすなどに乗り換えが必要です。リクライニングした姿勢だと心身が沈静化し、前傾姿勢になると活動への構えができ活性化するなど、心理面にも影響が現れます。

学習の時に使ういすや机には図のような種類があります。

【いす】
車いす 児童いす
養護いす 座位保持
いす



【机】
児童机 養護机
車いすに付属の机

ヒント② いすのいろいろ

車いす



学習で使う場合には、保護者の方に、お子さんの車いすが学習で使うことを想定したものかどうか尋ねてみて下さい。

通常の児童・生徒いす
(傾かずに座れる子)

45分(50分)の授業で、極端に姿勢が崩れず、字を書いたりするときに姿勢が大きく傾かないお子さんであれば、このいすでも構いません。

養護いす
(いすに座れるけれど、
姿勢が崩れやすい子)

手すりや高い背もたれが付いたいすです。左右へのお尻のずれも少し防ぐ機能があります。車いすより体を動かしやすいのがメリット。

座位保持いす
(一人では座れない子)

一人一人の体に合わせて作られた背もたれや座面、ベルトなどで姿勢を支えてくれます。座位保持いすを持っているお子さんの勉強には必ず使う、と考えて下さい。

ヒント③ 机のいろいろ

通常の児童・生徒机 (物の操作に問題のない子)



【メリット】場所を取りません。

【デメリット】天板が狭く、物を置いたり扱ったりがしにくいです。引出しやフレームが邪魔をして車いすが十分奥まで入れない場合もあります。

養護机 (物の操作が不器用な子・姿勢が崩れやすい子)



【メリット】天板が広く、端には1 cm位の返しが付いていて勉強用具の落下を防ぐことができるので、学習に集中しやすいです。手前が丸くカットされており、そこに入ることによって肘を着いて姿勢を支えられます。引出しの位置やフレームも工夫されていて、車いすできちんと奥まで入ることもできます。

【デメリット】サイズが大きく、重いので、通常の学級での配置には工夫が必要です。

車いすに付属した机 (学習には不適切)



一見便利ようですが、天板が小さく固定も不安定なので学習に向いていません。校外での学習向けと考えて下さい。

ヒント④ 養護いすでも大きすぎる場合があります。

- (1) 座面の奥までお尻を入れられますか？座面の奥行きが長すぎて、前の方にチョコンと座っていませんか？不安定な姿勢や、猫背の原因になります。
- (2) 座面の幅が広すぎて、一方に偏って座っていませんか？上半身の傾きの原因になります。



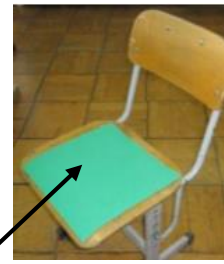
肢体不自由のあるお子さんの場合、姿勢の崩れに気づきにくく、どんどん姿勢が悪くなることがあります。いすは学習活動の土台。座面の調整が必要です。

ヒント⑤ 座面が大きすぎる場合のカンタン調整方法



お風呂マットなどの素材を切って重ねて、背もたれや手すりの内側に固定します。

お尻が前に滑ってしまう場合は、滑り止めシートを置くなどの工夫があります。



足置き台はスチロール製のブロックやパネルなどを貼り合わせて作ります。上面、底面には木の板を張り付け、重さを加えて安定させます。底面に滑り止めマットを張るとよいでしょう。

養護いす・養護机などの情報は・・・

- (1) 学校にある備品カタログに載っています。
- (2) 「学校備品.COM」のホームページ →



旭洋鉄工株式会社
「すべりどめシート」



高松支援学校ホームページ
「肢体不自由児の支援のヒント」
コーナーにも関連する資料を公開
しています。



この資料についてのお問い合わせは・・・

香川県立高松支援学校「からだと学びの相談センター」 (087) 865-4500

よくある質問



- 肢体不自由児学級が新設されるのですが、どんな備品をそろえたらよいですか？→①②
- 机はどんなものを用意したらいいのでしょうか？→「2 いす・机について」のシートをご覧ください。
- 教室内の配置はどんな点に気を付ければよいですか？→①②③

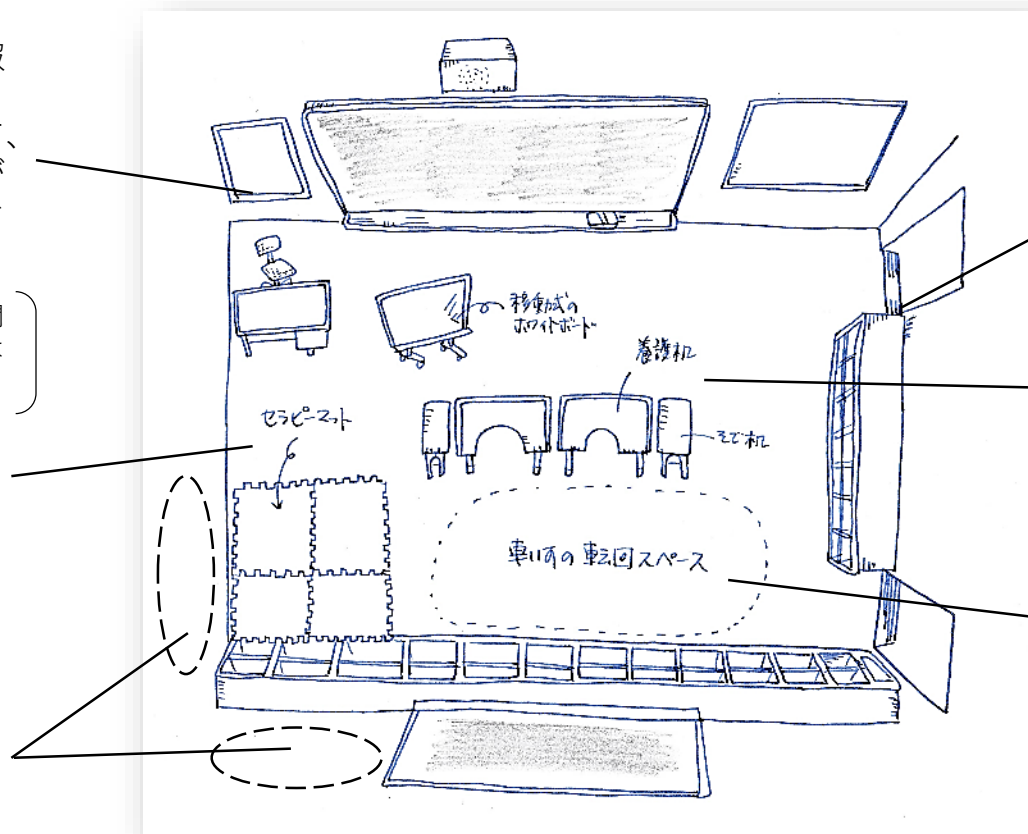
ヒント① 肢体不自由学級の教室環境のイメージ（車いすを使っている児童または生徒2名を想定しました）

視線の移動や視覚情報の処理に困難さのある肢体不自由児にとって、黒板の周りに掲示物があると、板書に注意を向けにくくなります。

特に目立つ学級目標や時間割表などは、黒板周辺には貼らないで。

車いすから降りて体を伸ばしたり、動かしするためのマットです。着替えのスペースにもなります。

掲示物は、教室後面か、後方の側面がおすすです。



出入口の敷居の段差を埋める小さなスロープ

机やいすについては、別シートを参照してください。

車いすの方向転換には予想以上にスペースが必要です。できるだけ広い空間があると、生活しやすくなります。

ヒント② 備えたい用品のいろいろ

セラピーマット



一日中車いすに乗っているのは体の負担になります。車いすから降りて体を伸ばしたり動かしたりするときを使うマットです。軽くてソフト、滑りにくい素材でできています。水洗いもできて清潔です。立てかけてすき間に収納することもできます。

更衣用カーテン



着替えの時や静かに休みたいときに、天井から吊ってあるカーテンは重宝します。保健室にある衝立でも代用できます（転倒に注意）。

移動式ホワイトボード



黒板は、机から距離があり、視力や視線移動に困難のある肢体不自由児には使いにくいことがあります。また近づくとも位置が高くて使えません。移動式ホワイトボードだと、近くに提示できて、子どもが書いたりしやすいので便利です。

出入り口の段差を埋める小さなスロープ



2cm位の高さの敷居も車いすの通行には障害になります。ホームセンターで売っていますし、木材で自作している学校もあります。教室の出入りで介助が要らなくなることで、自立した行動を妨げなくて済みます。

そで机

教室にゆとりがあれば、児童机をそで机として置くと便利です。

引出しからの教科書やノート、文房具の出し入れは想像以上に重労働です。



水道の蛇口

車いすに乗ったままで手を洗うのは難作業の一つ。長い蛇口やカランが市販されています。



ヒント③ 安全のための配慮

コード類は、壁に沿わせて

床をかうコード類が車いすでの移動の邪魔になることがあります。また、不安定に歩いている子どもは足元を見ることが苦手で、引っかけてしまうリスクがあります。コード類は壁に沿わせてください。

ロッカーや机の角には要注意

不安定に歩いている子どもの万が一の転倒に備えて、角には保護材を貼ることをお勧めします。

また、段ボールやケースなど低いものを床に置いておくと、つまづく元です。机の下や教室の隅へ。



動線を実体験しておいて下さい

先生が車いすに乗って、実際に教室を移動して、通れないところがないかチェックして下さい。

参考になる資料は・・・

スーパーセラピーマット
(パシフィックサプライ
株式会社HP)



福祉用具のいろいろ

アビリティーズケア
ネットHP
※楽天市場にもページ
があります。



パシフィックサプライ
株式会社HP



学校に届いている教材教具カタログの特別支援教育のページや冊子にも、いろいろな用品が載っています。

よくある質問



- 車いすに乗っている子どもの座席はどこにしたらいいのでしょうか？ →①②
- 机はどんなものを用意したらいいのでしょうか？ →③
- 教室内の配慮には、どのようなものがありますか？ →①②③

ヒント① 基本的な考え方

交流先の教室では大勢の子どもたちが学んでいます。また指導者も一人であることがほとんどです。

そのため、特別支援学級から子どもを引率すると、授業の妨げにならないようにと遠慮を感じる指導者も少なくないようです。

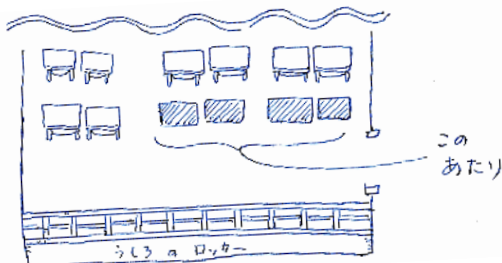
しかし、特別支援学級の子どもも授業に参加するからには、授業内容を十分に習得する権利があります。そのための環境づくりは必要です。

特別支援学級の担任が対応を一手に担うのではなく、授業を主となって進める交流先の学級担任と話し合い、分担しながら、教室環境を整えていく必要があります。



ヒント② 車いすに乗っている子どもの座席位置について

最後列の出入り口近く・または真ん中



【メリット】

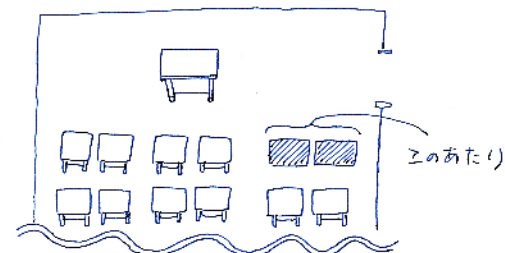
- ・車いすでの出入りがしやすい。
- ・車いすの背もたれで他の子どもの視界を妨げない

【デメリット】

- ・黒板が遠い。見えやすさだけでなく、視線移動に困難があることの多い肢体不自由児にとって不利。
- ・前の子どもで視界が妨げられる。首を伸ばしたり、体を乗りがしたりができないので、見えないままになってしまう。
- ・授業者が、学習の様子を確認しにくい。

整理してみると、他の子どもたちの学習への影響が優先されていて、多少の不便は仕方ない、という印象を受けます。

前の出入り口付近の最前列



【メリット】

- ・うまく調整すれば、後ろの子どもの視界を妨げない。
- ・出入りもそれほど手間ではない。
- ・黒板に近く、見やすい。
- ・授業者が学習の様子や進度を確認しやすい。

【デメリット】

- ・角度的に黒板が見えにくくなる。（黒板の反射は、一番前のカーテンを閉めてることで改善することがあります。）

相談があった学校には、この座席位置も選択肢として検討するようにおすすめしています。

出入り口の段差を埋める 小さなスロープ



2cm位の高さの敷居も車いすの通行には障害になります。ホームセンターで売っていますし、木材で自作している学校もあります。教室の出入りで介助が要らなくなることで、自立した行動を妨げなくて済みます。

教室内の通路の確保



この環境は肢体不自由児だけでなく、他の子どもにとっても安全で過ごしやすい環境になるのではないのでしょうか？

不安定ながら歩いている子どもの場合は、机の間の通路への配慮が必要です。机の横にはプールバッグや給食エプロン、習字セットなどをつってありますが、これらをロッカーにしまうルールがあると通路が広がります。全部でなくても、片方のフックにはつらないように調整してもらえただけでも、移動しやすくなります。

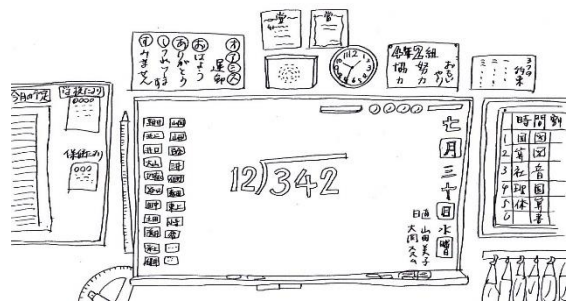
ロッカーの場所は？



手の届きやすい高さのロッカーを割り当てて下さい。例えば、カバンを持ったまま中身の出し入れができず、床でしないといけない子にとっては、ロッカーが一番下が良い、ということになります。

掲示物を貼る位置は？

～「黒板まわりスッキリ」の原則～



肢体不自由児の中には視覚情報の処理に困難さのある子どもが少なくありません。視力だけではなく、例えば、視線をノートと黒板とを行ったり来たりさせることなどが難しいなどです。黒板の周りに掲示物があると、それに視線を誘導されてさらに労力と時間が必要になります。学級目標や時間割など目立つ掲示物は、教室の後面、または側面後方に貼るようにして下さい。

いすや机はどうしたらいい？



詳しくは「2 いす・机について」をご覧ください。児童机では車いすの手すりや机の引き出し部分に引っかかって十分に近づくことができず大変不便をします。引出し部分を取り外す工夫と、そこで机の併用で解決している学校もあります。養護机を持ち込む場合は、大きさがネックになることもあります。また高価なので複数台購入することが難しいかも知れません。

対応はケースバイケースです。管理職を交えて、どの子にとって
も学びやすい落としどころを探る、ということだと思って下さい。

よくある質問



- ☐ 鉛筆を持つ手に力が入って書きにくそう。紙も動いたり破れたりします。①②
- ☐ 筆圧が弱くて読みづらい字になってしまいます。自分で書いた字が読めなくて困っています。①③
- ☐ 書くのにとっても時間がかかって、授業が思うように進みません。①⑤
- ☐ 漢字の形がうまくとれず、バラバラな字になってしまいます。④

ヒント① 書字の支援の考え方

体や力のコントロールの難しさや、書くことに時間がかかってしまうことがよく見られる困難で、書字にかかる負担や効率の悪さをどう軽減するかが支援の中心になります。

しかし、書字の困難の核心は、実は「書きにくい」ことではなく、それによって、学習で大切にしたい知識や思考力、表現力が身に付きにくくなったり、学習意欲を損ねてしまったりすることです。書字は学習の手段の一つととらえ、他の手段を上手に組み合わせる柔軟な支援が求められます。

A 書く動作をしやすくする。

B 書くことの負担を少なくする。

C 書くことにこだわらず、他の手段を組み合わせる。



ヒント② 筆記用具の工夫

～書く動作をしやすくする～

グリップを太くする



握りを太くすると握る力が鉛筆に伝わりやすく、余分な力がいらなくなるので書きやすくなります。太い鉛筆を使う方法と、鉛筆に太いグリップを付ける方法があります。

手のひらの空間を埋める



鉛筆を握るときは手のひらと指の間に空間を作る必要があります。力の調整が難しいお子さんはこの空間を作っておくことが難しくなります。何かを握って空間を埋めることで書きやすくなります。市販品もあります。

バインダーで紙を固定



片手だけで字を書いたり消したりしてみてください。紙が動いてやりにくいはずですが、利き手でない方の手はとても大切な役目をしています。それを補う工夫が必要です。

すべり止めマットを使う



最近では、字を書くのに適した滑り止めマットも市販されています。特に片麻痺のある子どもには必需品と言えるでしょう。

ヒント③ 筆圧の弱さを補う

濃い鉛筆や、マーカーを使う

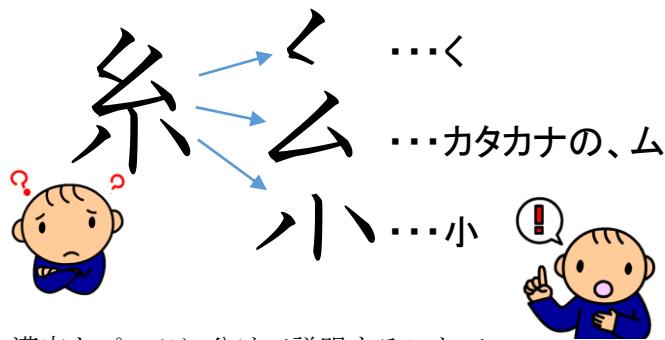


塗り絵など筆圧を強くするトレーニングもありますが、筆圧が弱くても濃い字が書ければよい、という発想もあります。6Bの鉛筆や、マーカーを使うことで筆跡も濃くなります。太いペンは握りやすくなるので字を書きやすくなります。

ヒント④ 漢字の形をとらえやすくする

肢体不自由のある子どもの中には図形の処理が苦手で、手本を見て形をとらえたり、まねて書いたりすることが難しい場合があります。

パーツに分ける



漢字をパーツに分けて説明することで、「あ、なるほど」と分かる子どもがいます。

音でイメージを補う

す

「よ〜こ、ピタッ」

「た〜て

くるっと

シュッ」

運筆に、言葉をのせて練習することで書きやすくなる子どももいます。

ヒント⑤ 書くことにこだわらない学習方法を

通常は、学年が上がると書くことから、考えたり表現したりすることにパワーを傾けられるようになっていきますが、肢体不自由のある子どもでは書くことの負担が減るどころか増える一方です。自分が書いた内容の見直しや、書き直しなど、考えを深める作業を妨げられ、二次的な不利益を生じます。書くことは学習の手段の一つであって、学習の中心ではありません。

「書くことができるかどうか」ではなく「流ちょうに書くことができるか」を見るようにしてください。そして手段を柔軟に用意してください。



代筆による支援

頑張っているうちに授業が進んでしまう。せっかく書いたノートは復習に使えない・・・
そんな子はいませんか。



PCやタブレット端末の利用



書いたり消したりする負担を軽減し「じっくり考える」「納得いく作文を書く」ことに役立ちます。活用方法は、高松支援学校にご相談下さい。

詳しい情報はこちら

高松支援学校HP「肢体不自由教育ガイドブック」（国語教育）

くもん出版
「こどもえんぴつ」

旭洋鉄工株式会社
「すべりどめシート」



ゴムQ「Qシリーズ
使い方ハンドブック」



よくあるご質問



- 姿勢が崩れて食べにくそうです。どんな姿勢で食べるといいの？ →②
- 子どもに合った食器や食具を使いたいのだけれど、どのようなものがあるの？ →③④
- 時々むせることがあります。どうしたらいいの？ →②⑤
- 嚙まずに丸飲みになってしまいます。どうすればいいの？ →②③⑤
- 食事指導をどのように進めていけばいいの？ →①⑤

ヒント① 基本的な考え方

私たちにとって食事は、生きるために必要な営みです。しかし、肢体不自由のあるお子さんにとって「食べる」という行為自体が容易ではない場合があります。毎日行うからこそ「安全で」「楽しい」時間になってほしいものですね。そのためには、まずは

「食事姿勢」 「食器・食具」 「食物形態」

の3つの視点から食事環境を整えていきましょう。食事環境の整備や援助方法については、保護者とよく話し合いながら行っていきましょう。

「自分で全部食べられるように…」にひそむ落とし穴

「自分で全部食べられること」は、とても素敵なことです。しかし、限られた時間内に十分な食事量がとれないお子さんがいます。また、上手に食べることができず、こぼしたり汚したりしてしまうお子さんは、外出先ではマナー面で問題を生じます。**「自分で全部食べる」ことだけにこだわらず、場面に合った柔軟な対応が必要となります。**どのような支援が必要なのかを支援者に伝える力やマナーを守りつつ場面に応じた食事方法を選択する力など**「手伝ってもらって食べる」ために必要な力**も併せて身につけておきましょう。

ヒント② 食事姿勢について

※机やいすの高さ調整については、「2 いす・机について」をご覧ください。



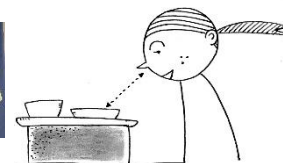
背中を丸くして、前かがみになって食べています。ずいぶん顔が食器に近づいていますね。足裏もつま先しかついていません。



いすに深く腰かけ背筋を伸ばして食べています。足裏はしっかりと床につき、安定した姿勢です。

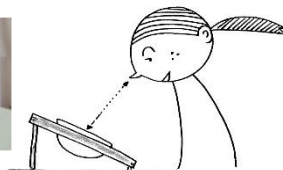


首を反らして食べています。口が閉じにくく、**食べ物が入りやすい姿勢**です。また、足が突っ張り、不安定な姿勢です。

背中が丸くなっているお子さんの対処グッズ
ブロック

食器を置く位置を高くして、食器を顔に近づけることで、前かがみの姿勢を改善します。

書見台



角度がついていることで、見やすくなり、スプーンなどで食べ物をすくいやすくなります。

ヒント③ 食具（お箸、スプーンなど）

いろいろなタイプの食具があります。お子さんの実態に合わせて選びましょう。お箸は、手首から中指の先までの長さに3 cm プラスした長さが適当と言われています。スプーンは、口の幅の3分の2程度の大きさのものを選びましょう。大きいスプーンは、食べ物をたくさん口に入れることができ、一見早く食べられそうですが、口の中で処理できず、丸飲みになったり、口からこぼれたりしてしまいます。

クリップ付の箸



着脱式のスリッパが付いており箸がばらばらにならないようになっています。握力が弱かったり、細かい作業が苦手なお子さんでも食べ物がつまみやすくなっています。

平らな先のスプーン



スプーンの前が平らになっていることで、食べ物がすくいやすくなっています。

持ちやすいスプーン



輪のところに手を入れてスプーンを握るため、落とすにくく力の弱いお子さんでも使いやすくなっています。

挟めるスプーン



お箸とスプーンが一体になっており、すくう、挟む、切る等ができます。特に片まひのお子さんに便利です。

ネックが変形するスプーン



ヘッドの部分が前後左右に自由に曲がるため、お子さんの動きに合わせて変形することができます。

シリコンスプーン



シリコンでできているため口当たりがソフトです。ただ、噛み込みのきついお子さんは、噛み切るおそれがあるので使用できません。

便利なグッズ シリコングリップ



スプーンなどの柄にくるくる巻きつけるだけで、ほどよい太さになり握りやすくなります。シリコン製で滑りにくくなっています。



ヒント④ 自助食器



スプーンなどですくいやすい形状になっています。また、食器のリムが広くなっており、手を添えやすくなっています。裏には滑り止めがついており、食器がずれにくくなっています。

便利なグッズ 滑り止めシート

食器の下に敷くと食器がずれるのを防止してくれます。食器を支えることが難しいお子さんに便利です。

牛乳パックホルダー



力加減が難しいお子さんや力の弱いお子さんに利用します。

ヒント⑤ 食事指導について

注意が必要な食材とは？

喉にはりつきやすい食材…わかめやのりなどの海藻類、レタスなど
喉に滑り込みやすい食材…白玉、ミニトマト、ぶどうなど
口の中でバラバラになりやすい食材…刻んだゴボウやレンコンなど
きちんと手を加え、本人が食べやすい食物形態にしてから食べるようにしてください。

食事指導や食物形態についての詳細は、こちら →
高松支援学校ホームページ
「肢体不自由教育スタートアップ講座『摂食指導』」



参考図書：摂食育コミュニケーション（著者：中島知夏子）

この資料についてのお問い合わせは・・・

香川県立高松支援学校「からだと学びの相談センター」（087）865-4500

よくある質問



- どんなトイレを準備すればいいの？ →①②③④⑥
- 姿勢が不安定になってしまい、転ばないか心配だけど、どうしたらいいの？ →③④
- トイレ指導はどのように進めていけばいいの？ →⑤⑥

ヒント① 基本的な考え方

トイレ指導を行う前に、まず大切なことはトイレがそのお子さんにとって使いやすいものになっているかということです。そこには、

「トイレが自分でできる工夫」
「安全面への配慮」

の2つの視点が必要となります。保護者の方ともよく話し合いながら、トイレの大きさや設定など、そのお子さんにあったトイレ環境を整備していきましょう。



ヒント② 車いす用トイレの設置について

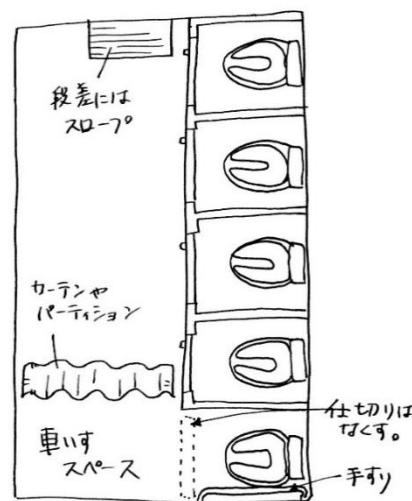
車いすのお子さんがトイレを利用するためには、まず使いやすいように環境を整備する必要があります。それには、新しく専用のトイレを増設する方法と、今あるトイレを改修する方法とがあります。

(1) 多目的トイレの増設



一般の身障者用トイレは、車いすを**転回しやすい広いスペース**があり、便座の横には**可動式の手すり**がついています。また、**開閉しやすい扉**となっています。最近では、**ユニバーサルシート**（大人も使用できる大きさのベッド）がついているところも多く、必要ない時には畳んでおくことができるタイプもあります。

(2) 既存のトイレの改修



障害者用トイレを設置することが難しい場合は、既存のトイレを工夫することで、車いす用のトイレスペースを確保することができます。その場合は、**洋式便座の設置**、扉などの**仕切りの撤去**、**手すりやカーテンの設置**などが必要です。広いスペースの確保や使いやすいトイレの工夫の他に**プライバシーに配慮したスペース**になるように心がけてください。

ヒント③ 特別なトイレ

(1) 改造トイレ



一般の洋式トイレに、安全バーや背もたれ、ベルトなどを付けて、安全に座ることができます。

(2) ポータブルトイレ



(参考: 快適空間
スクリオ)



自由に置き場所を変えることができます。いろいろなタイプのものがあるので、設置場所や身体状況に合わせて選べます。

(3) トイレットチェア



(参考: 有菌製作所)



身体の小さなお子さんがトイレトレーニングをする際に使用します。背もたれや机などがついており、姿勢が崩れやすいお子さんも楽に座ることができます。

(4) 幼児用の便座



お尻が便座から落ち込みそうになっているお子さんに使用します。携帯用があり、付け外しが可能です。

ヒント④ トイレにあると便利なグッズ

発砲スチロールブロック



便座に座ると足が浮いてしまうお子さんに使用します。

足元に置くことで足をついて安定して座ることができます。



上半身がフラフラ
せずに一人で座れる
工夫を！

クッションや机

姿勢が不安定になるお子さん

に使用します。クッションを挟んだり、机に手をつくことで姿勢が安定し、安心して座ることができます。

ヒント⑤ トイレ指導

トイレ指導の進め方や注意点についてはこちら →
(高松支援学校ホームページ)



ヒント⑥ その他

水道の蛇口



車いすに乗ったままで手を洗うのは難作業の一つ。長い蛇口やカランが市販されています。

衣服の工夫

ボタンがついたズボンやジーンズなどの伸縮性のない生地の子供用ズボンは、お子さんが着脱するのも指導者が援助するのも大変です。**ウエストにゴムや紐のついたものや伸縮性のある生地の子供用ズボン**が着脱しやすいです。

ウォシュレットの使用

お尻を拭くことが難しいお子さんにお勧めします。お尻を清潔に保つことができます。

この資料に関するお問い合わせは・・・

よくある質問



- ☐ いつも乗っている車いすが窮屈そう→①②③④
- ☐ 車いすで姿勢が崩れることが多い、または増えた気がする→①②③④
- ☐ 足が車いすのフットレストから落ちていることが多い→①②③④
- ☐ 下肢装具がきちんとはかされているか不安→①②③④
- ☐ 歩行器での姿勢が悪い（前のめり、左右への偏り）気がする→①③④

ヒント① 基本的な考え方

- 車いすなどの補装具は、**成長と共に調整して使う用具**です。成長期の子どもたちでは**サイズが合わなくなることは当然**です。
- 車いすや装具は、生活や学習の土台です。**きちんと体に合わせてサイズ調整する**必要があります。
- サイズが合っていないことに気づくのは、生活を共にしている保護者や私たち教員の役割です。



- この資料などを参考にして、サイズが合ってなさそうな場合は、**保護者を通じて製作した医療機関等に連絡し、調整してもらいます。**

ヒント② まずは正しく乗る・正しく着ける

車いす・座位保持いす

- ☐ ベルトが付いているものは全部しめる

- ☐ 付属しているテーブルやクッションは毎回使う

- ☐ くつを履いて、足はフットレストの上に

- ☐ お尻は、一番奥までしっかり入れる

- ☐ お尻が斜めに入っていたり、前や左右に寄っていたりしていませんか？

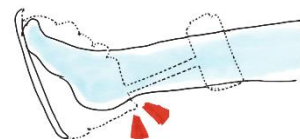
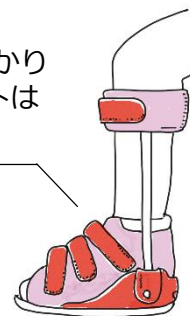


骨盤を上から見た図

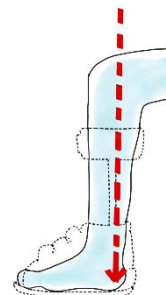
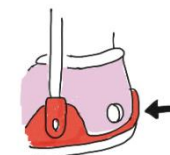
下肢装具・ブーツ

- ☐ 足首のベルトはしっかりとしめる。他のベルトはきつすぎず緩すぎず

- ☐ 指先を広げる



- ☐ かかとをきちんと入れる。かかとに穴があるタイプは、先生の指を入れてかかとが入っているか確認



かかとの入れ方のコツ

ひざが伸びた状態だとかかとが下りてきません。深くひざをまげて、上から圧をかけるようにします

ヒント③ きちんと座ったり着けたりした上で、「サイズが合わなくなっているサイン」のチェック

車いす・座位保持いす

□胸ベルトの位置が低い

お腹のあたりにあって、上半身の支えになっていないなど

□背中が前や横に大きく傾いている



□骨盤のベルトが緩い・きつい

自分でも調整できます

□座面前端と膝の間が空いている

ものの長さが合っていない

□座面とひざ、ももにすき間がある

すねの長さに合っていない、ひざが持ち上がっています

□肩が背もたれより高くなっている（座位保持いす）

背が伸びて、全体の調整が必要です

□ひじがテーブルにうまくつかない

背が伸びて、全体の調整が必要です



ベルト類のベルクロテープのくっつきが悪くなっていますか？
糸くずなどを掃除すると若干回復しますが、交換するのがベストです。

下肢装具・ブーツ



□指がはみ出す

つま先が閉じているタイプは上から触って、指が丸まっていないか確認します



□どうしても、かかとが入らない



□靴底のはがれ



□脱いだ後、強い赤みや、皮膚にすれがある

歩行器（例：PCウォーカー）



□まっすぐに立つとグリップが低い

グリップが手首の高さに来るのが適正です



□極端に前のめり、猫背になる

背が伸びて歩行器の高さが不足しています

ヒント④ チェックにひっかかっていたら…



保護者を通じて、製作した医療機関等（主治医、理学療法士等）に確認と調整をお願いして下さい。

補装具も定期検診（？）が必要です。年に一度は、医療機関での確認と調整をしてもらうことをお勧めします。
※この他にも、立位台や体幹装具などいろいろな用具があります。大きくて運べないものは、写真や動画を見てもらうのも良いでしょう。

この資料に関するお問い合わせは・・・

香川県立高松支援学校「からだと学びの相談センター」（087）865-4500



ホームページの内容

- 本校の概要や、授業や行事などの様子を紹介しています。
 - 教育相談、研修会や、学校体験会などを案内しています。
 - 肢体不自由教育の専門校として、学習や生活、指導に役立つ情報や資料を公開しています。→②
- ※レイアウトは、多少の変更を加えることがあります。

ヒント① トップページはこのようなになっています

本校のグランドデザインや、教育課程、交通アクセス、連絡先などについて紹介しています。
体験入学会や教育相談、研修会のご案内のページへのリンクもあります。

各部の学習や生活の様子を写真入りで紹介しています。時間割も載せています。

その他にも、進路指導、PTA活動などのご案内もこちらから。寄宿舎のページでは、「寄宿舎だより」も公開しています。
進路指導、高等部入学者選考についてのご案内もこちら。



香川県教育委員会のICT活用についてのホームページです。本校のタブレット端末等の活用実践事例も写真入りで多く紹介されています。

メニュー

- 学校トップページ
- 学校の概要
- 校長室
- 連絡先・交通アクセス
- 行事予定
- 相談センタートップ
- 肢体不自由児の支援のヒント
- 教育相談
- 研修・フリー参観
- 給食メニュー・たより
- 高等部・高等部入学者選考
- 小学部
- 中学部
- 高等部
- 高等部入学者選考
- 生徒指導
- 進路指導
- 訪問教育
- 寄宿舎・たより
- PTA
- 同窓会
- 共有資料
- スマートフォン

お知らせ

- ・「フリー参観日」「肢体不自由教育研修会」の実施要項を掲載しました。 5/2
- ・スマートフォン用表示画面への変更方法

新着情報

最新 5月

記事タイトル	HP担当	更新日時
肢体不自由教育研修会 (8/1, 8/2) の実施要項を掲載	HP担当	05/04 07:30
フリー参観日 (5/15) の実施要項を掲載	HP担当	05/04 07:30
はけんだより5月号を掲載しました。	HP担当	05/04 07:30
体育祭のテーマ装飾をみんなで制作中！	HP担当	05/02 07:30
教育計画について学びました。	HP担当	05/01 07:30

トピックス

子どもたちや学校の様子をお伝えします。

1 2 3 4 5 次 ▶ カテゴリ選択 ▼ 20件 ▼

2017/05/03 ● 肢体不自由教育研修会 (8/1, 8/2) の実施要項を掲載 | by HP担当

からだと学びの相談センター

肢体不自由児の支援のヒント

地域のある方の支援を担当されている方のアプローチをともに学びませんか？

からだと学びの相談センター

肢体不自由児の支援のヒント

ICT教材等データベース

地域の肢体不自由教育のセンターとして、肢体不自由教育に関する様々な情報を発信しています。研修会の申し込み、様々な資料のダウンロードなどができます。→裏面へ

ヒント②



教育相談、研修会、各種資料公開など、本校が行っている校外の方への支援、情報提供の機能をご活用いただく窓口となるホームページです。

相談センタートップ 教育相談 研修・学校公開(旧名:フリー参観) スタート講座 資料箱

「からだと学びの相談センター」は、高松養護学校の教育のノウハウを生かして、ご相談や支援を行っています。



私たち、「からだと学びの相談センター」では、・・・

- ・便利な道具やICT機器の活用など、いろいろな工夫をご提案します。
- ・コミュニケーションを楽しくする援助方法や、ツールをご紹介します。
- ・一人一人にあった、からだづくりや動きづくり、ケアの方法をお伝えします。
- ・机やいすの高さ、安全で勉強しやすい環境づくりの紹介をします。
- ・就学相談にも応じます。



「肢体不自由児の支援のヒント」へのリンク

研修会の案内と申込書을載せてあるページです。

教育相談のお申し込みの流れや、相談票などを載せてあるページです。



スマホやタブレット端末のアプリで、QRコードを読み取ると直接ページを見ることができます。

肢体不自由教育に関する、いろいろな資料を公開しています。毎年、少しずつ追加をしていますので、ぜひご活用下さい。

「個別的教育支援計画」の様式・記入例

- ・本校の個別的教育支援計画の様式や記入例、活用についての紹介

支援教育だより（肢体不自由編）Part1～5

- ・子どもの身体機能、感覚機能、コミュニケーションの発達や指導方法についての5回にわたる解説

肢体不自由教育よくある相談ヒントシート

- ・教育相談でよくお受けする質問へのお答えをまとめたシート
- ・特別支援学級の環境、トイレ、食事、専門機関活用など

肢体不自由教育ガイドブック

- ・教科指導、日常生活の指導、自立活動の指導、コミュニケーション機器、情報機器の活用など幅広いテーマの資料

肢体不自由教育スタートアップ講座

- ・新しく肢体不自由教育を担当される方へ、5つの基礎基本となるポイントをまとめています。

教材・教具（自立活動編）、補助具の紹介

- ・生活や学習のしやすさにつながる補助具や支援機器についての紹介

肢体不自由の方への介助について

- ・介助の際に気をつけることや、車いすの操作方法についての紹介
- ・姿勢、トイレ、食事の際の配慮について紹介

肢体不自由の方の日常生活に関するQ&A

- ・介助の際に気をつけることや、車いすの操作方法についての紹介
- ・姿勢、トイレ、食事の際の配慮について紹介

肢体不自由のある子どものプール指導

- ・肢体不自由のある子どもへのプール指導の方法についての紹介

この資料についてのお問い合わせは・・・

香川県立高松支援学校「からだと学びの相談センター」 (087) 865-4500